

エネオス株式会社の組織ぐるみによる セクハラ隠しを徹底的に糾弾します

エネオス株式会社において、新入社員がセクハラ被害を受けるという事案が発生しました。

しかも、被害女性は19歳。入社初日の出来事です。

男性上司に、袖を引っ張られ、身体を触られた女性は、心療内科において

適応障害と診断をされました。

さらに、男性不信に陥り、今では部屋から出てくることも難しい状況になっています。

このような状況を受けて、会社側へ誠意ある対応を求めて団体交渉を行いました。が、会社側からの回答は、

「道義的には謝罪するが、法律的な謝罪は行わない」

「適応障害と本件は結び付かない」

という対応です。

道義的には謝罪し、法律的な謝罪は行わないというのはいったいどういう意味なのでしょうか？

セクハラ的事实は認めるが、謝る気はないということでしょうか？

適応障害は本件とは無関係ということは、被害女性にはもともと適応障害があったということでしょうか？

誰が見ても、どちらに非があるのかは明白ではないでしょうか？

私たちは、エネオス株式会社のこのような不誠実かつ人道的に外れた対応を絶対に許しません。

組織ぐるみでセクハラ隠しを行うエネオス株式会社を徹底的に糾弾します。